

第6回小牧市新たな学校づくり推進計画検討委員会会議録

日時：令和6年8月21日（水）午後2時～午後3時30分

場所：小牧市役所本庁舎4階404会議室

■出席者

【委員】

柴田 好章	名古屋大学教授
鈴木 賢一	名古屋市立大学特任教授
大村 恵	愛知教育大学教授
加藤 和昭	味岡小学校長
塚本 真也	光ヶ丘中学校長
服部 裕司	小中学校PTA連絡協議会委員（桃陵中学校PTA会長）
後藤 美保子	小中学校PTA連絡協議会委員（小木小学校PTA家庭教育委員）
舟橋 秀岳	小牧市区長連合副会長（北里）

【事務局】

中川 宣芳	教育長
伊藤 京子	教育部長
矢本 博士	教育部次長
丸藤 卓也	教育総務課長
長谷川 真	学校教育課指導主事兼主幹兼教育総務課主幹
采女 隆一	学校教育課管理指導主事兼主幹
瀬尾 宗利	学校教育課指導主事兼主幹
遠山 史織	教育総務課庶務係長
稲垣 翔太	教育総務課庶務係主事

■傍聴者

4名

■配布資料

資料1	パブリックコメント実施結果について
資料2	計画（案）
資料3	計画（案）【概要版】
資料4	提出された意見および市の考え方
資料5	提出された意見および市の考え方【要約版】
資料6	計画（案）修正箇所

■会議内容

1 開会

2 教育長あいさつ

【中川教育長】

委員の皆様方におかれましては、第6回小牧市新たな学校づくり推進計画検討委員会の開催にあたりまして、大変お忙しい中、また、お暑い中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。本委員会での議論を経て作成してまいりました計画案につきまして、先般パブリックコメントを実施いたしまして、市民の皆様方から貴重な意見を得ることができました。本日は、その結果などにつきまして報告をさせていただきます。皆様方から忌憚のないご意見をいただき、実りある会議としてまいりたいと考えております。この後、限られた時間ではございますが、皆様方のご協力をお願いいたします。

3 前回会議録確認

・前回会議録について確認を行った。

4 議題

(1) パブリックコメント実施結果について

・事務局より資料1から資料6に基づき、パブリックコメント実施結果について説明した。
また、資料5に基づき、意見交換を行った。

①学校再編のイメージについて

舟橋委員	分校という考え方を提案された方がいた。低学年は分校で近い学校に、高学年になったら本校に通学するというものだが、小牧市ではこの方法を具体的にどのように考えているのかお聞きしたい。
事務局	学校再編に関して分校のご意見をいくつかいただきましたが、現計画におきましては分校を実施することは考えておりません。もちろん通学の問題と大きく関係しますので、学年や地域の実情、距離などを考えながら、公共交通機関の活用、自転車や通学バスの検討もしていきながら、負担の軽減に努めていきたいと考えております。
加藤委員	篠岡地区と巾下地区の意見が多いのは当然かなとは思いますが、再編のイメージの「市の考え方」に、「具体的な再編案は、今後、地域の実情に合わせて地域別の再編計画を策定していく中で検討する」と記述されている。計画の59ページにも、協議の流れということで、今後、地域と課題共有しながら案を策定して方針を決定する、と示されている。9月の定例教育委員会の議

	決後、正式にこの計画が公開されるということなのだが、その後の流れのことで、来年度から各地域での協議がスタートしていくのか、それとも今年度中からその協議が始まるのか、もし考えがあれば教えていただきたい。
事務局	本計画につきましては、9月の定例教育委員会で議決をいただいて、正式に策定、公表という流れになります。その後の具体的な地域別の再編計画の流れ、スピード感といった質問だと思いますが、計画の中でも、巾下地区、篠岡地区、北里地区については早急に協議を進める必要がある、と位置付けております。いつからということは申し上げられませんが、できるだけ早くそういった協議を進めていく必要があると考えています。
塚本委員	私もいつ頃からどのように再編を進めるのか、ということが気になっていて、今回はイメージということでお示ししているが、意見を見ていると、多くの方がもうこのように進めていくものと認識し、それに対しての意見が多いように見受けられる。ということは、これからどのようにして再編していくのかが気になっているということだと思う。「早急に」というのが、具体的に分かってきたら、早めに教えていただけるといいかなと思う。特に篠岡地区については、児童生徒の減少が著しいので再編にすぐ取り組むというような言葉もあったため、余計に篠岡地区においては気になってくるところだと思う。
後藤委員	今までこの委員会で協議をされ、市の方もたくさん協議をされて、ここまでやってきたと思う。辛辣に再編に反対という明確なご意見などもある中で、これから地域の方と協議されていく中では、そういうご意見が少なからずある。たくさんの方がいれば、反対・賛成の意見がたくさん出てくる。その反対意見だけで中止するわけにはいかない状況ではあると思うが、そういったご意見をいただいたときに、今までこうやって話してきて、これだけ進めてきているから、この意見は無視する、ということにならないのかと思う。そういう意見に関しては、これから密に連絡を取って協議をされていく必要があると思う。地域の方などにとっては、自分がその立場だとしたら、大変なことであって、それに反対ではなければいいが、もし反対だと思っている方がいた場合に、どのようにこれから地域の方と折り合いをつけていくのか、ということをお聞かせいただけるとありがたい。
事務局	たくさんのご意見をいただいた中で、学校再編に賛成する方、それから反対する方、それぞれご意見をいただいたところでございますが、再編に対して反対というご意見の中でも、それぞれ確認をすると、どこに反対をしている

	のかがそれぞれ異なります。通学が心配だから学校再編に反対、もしくは地域の拠点としての学校が無くなること自体が反対だから学校再編に反対するといったような、それぞれ意見をいただいた方によって、どこに反対しているかが異なるものですから、そこはしっかりと整理をして、課題に向き合っていく必要があると考えております。計画の 59 ページにも協議の流れがございますが、今後、それぞれの地域に応じて、それぞれの課題も異なりますので、様々な課題がこれから出てくるかと思いますが、それぞれ丁寧に向き合い、課題の共有をさせていただきながら、再編計画を進めていきたいと考えております。この学校再編が子どもたちにとって望ましい教育を実現していくために必要なものだということを、しっかり丁寧に説明を尽くしていくことが大事なことです、そのように進めていきたいと考えています。
--	--

②通学（適正配置）について

後藤委員	先日、PTA の中でも話が出たことなのだが、この適正配置では、自転車の通学やスクールバスなどの検討をなさることなのだが、もちろん歩いても事故には遭うし、色々な可能性はあるが、やはり自転車による事故は多いと聞いている。通学距離が遠くなるから自転車通学となった際に、大人は運転免許証を持っており、自動車学校で交通ルールを学んで車に乗っている一方で、子どもたちは、最近交通教室が昔のようにあるわけではなく、交通ルールを分っていない子が多い。自転車は車両だと思わず、移動できる手段として便利に子どもたちは使っているが、自分たちが車両に乗っているという意識がなく、逆走したり、複数人で道を埋めて走行したりしている。小牧市の中でも細い道では車と密にすれ違うところもあって、そういったところが通学路であると、親の心労が絶えない。もし自転車通学にされるのであれば、適正に通学できるように自転車用の道を作ったり、交通教室を開いて交通ルールを徹底するなどの対策がなされていくと良いと思う。
事務局	通学について、「市の考え方」のところで、「自転車による通学や公共交通機関の利用、スクールバスの導入等を検討します」というように記述しておりますが、やはり今ご指摘いただいたように、自転車通学になれば通学の危険性であったり、スクールバスを導入したからそれで良いということではなく、スクールバスの問題点・課題ということもこれから出てくると思いますので、きめ細かに検証しながら、より安全に子どもたちが登校できるような

	対策を、学校や保護者とも連携しながら実施していく必要があると考えています。また、今ご指摘いただいた交通安全の指導につきましても学校の方でしっかりと取り組んでいく必要があると考えております。
大村委員	今のご意見はとても大事だと思っていて、自転車通学の場合、子どもたちへの教育も非常に大事だが、ハードの面において、自転車用の道であったり、歩道自体がきちんと整備されているのか。今回の再編で通学距離が長くなることも考えられるため、子どもの通学にふさわしい安全な歩道がきちんと作られているかどうかということも非常に重要であり、道路の整備計画との擦り合わせがされているのかどうかお聞きしたい。
事務局	通学路の安全に関するお尋ねかと思いますが、教育委員会としては、全てはお答えできないかもしれませんが、市におきましては、通学路の安全に向けて通学路交通安全プログラムを策定しておりまして、それに基づいて毎年、通学路の安全点検を、警察や道路関係部局などの関係機関が協働して実施しているところでございます。その中で、危険な箇所については、それぞれの機関でできる対策を行っているところでございます。また、通学区域、通学路が変更になった場合には、その仕組みの中でもしっかりと確認をさせていただいて、児童生徒の安全確保に努めていきたいと考えております。
大村委員	その通学路交通安全プログラムは、道路整備まで議論ができるのか。つまり、信号やガードレール程度のことであれば簡単な話であるが、道路整備まで権限を持ったプログラムであるのか。
事務局	通学路交通安全プログラムについては、例えば道路関係部局や警察などに対して強制力があるものではなく、それぞれの関係機関でできることを進めていくものになります。
大村委員	今後通学について議論をされる際には、工夫すればなんとかなるというレベルではおそくないため、子どもたちに安全な道路を整備するという視点で協議をしていく場を設けていただくようお願いしたい。
服部委員	6 ページの 10 番については、教科書によってランドセルが非常に重く、それで体を壊す子どもがいるくらいである。ICT による教科書のデジタル化などだけで、教科書を少なくすることは難しいのかもしれないが、ランドセルの重さに加え、通学距離が 4km や 6km となり、中学生はリュックに教科書を詰め込み、夏は水筒を入れ、それで自転車に乗るとなると、バランスが非常に悪く、本当に危険である。そういったランドセル・リュックは本当に

	重い。それを背負い、毎日通学することは本当に大変である。それに加え、通学距離が長くなり、自転車通学になれば、事故もきっと増えると思う。教科書の問題も通学の問題と並列して取り組んでいただければ。
事務局	通学における荷物の重さというのは、何年も前から社会的にも言われております。本市においても、全小中学校で全てのものを持ち帰って、全てのものをまた持ってくるのではなくて、必要なものを子どもたちに判断をさせながら、言葉を選ばずに言えば、置き勉をし、学校に荷物を置いている。家で必要なものは持ち帰らせるなど、荷物の軽減のために、子どもたちに考えさせ、柔軟に学校で対応していくことを始めているところです。先ほどの自転車の課題につきましても、今の通学路における荷物の多さの課題につきましても、学校再編に関わらず、まさに現在、子どもたちの命・健康を守る取組でありますので、再編計画の中でまた検討していくとともに、日常の学校生活をより向上させる上でも、できることから実施していきたいと考えています。
服部委員	例えば、予習・復習をやりなさいとなったときに、時間割を見ながら、今日は教科書を持っていくのか、持って帰らないのか、と判断する必要がある、結果、忘れてしまったり、予習・復習があるのに教科書を置いてきてしまうことが多かったりする。毎日、子どもたちが時間割を見ながら、「持って帰る」、「持って帰らない」を判断することが果たして可能かどうか。それができる子どもはしっかりやると思うが、できる子とできない子がそれぞれいると思う。
事務局	今のご意見も含めて、改めて学校の方で検討してまいりたいと思います。
柴田委員	関連して、デジタル教科書の取組は現時点であるのか。
事務局	デジタル教科書については、現在、英語と数学を導入しています。ただし、数学は全ての学校ではなく、特定の学校のみになります。現在、デジタル教科書の普及に向けて、国の施策として、推進をしているところでございます。各教科をデジタル教科書に移行すれば、荷物軽減にも活用できるかと思っておりますので、今後も国の動向を注視していきたいと考えております。
舟橋委員	国が進めないと、市では勝手にデジタル化を進めることはできないのか。
事務局	児童生徒用のデジタル教科書につきましては、現在、国の実証事業中というところでございまして、国の動向を注視しながら適切に検討してまいりたいと考えています。

③人口増加対策と学校再編について

服部委員	学校の再編計画では、人口は減っていくことが前提になっている。もう減っていくのであろうが、「こども夢・チャレンジN o.1 都市宣言」など、市ではいくつか策を講じていると思う。小牧市の人口は、2015 年がピークで、そこからどんどん減っている中でのこの計画なのだが、先週の新聞で、豊山町は 1,000 人増えていることが書かれていた。長久手市や大口町も人口が増えている。魅力があり住みたいと思うから増えているのか、子育ての施策が成功しているのかどうか、そこは分からないが、近隣に人口が増えている自治体がある状況で、何かできることがあるのではないかな。市も図書館をはじめとして様々な策を講じていると思うが、もう少し魅力ある市にするための施策があれば、人口も多少増えていく可能性があるのではないかな。そういう市にしたいと、一人の市民として思っている。例えば、会社の部下は清須市在住だが、清須市では小学校 1 年生全員にランドセルを配っている。そのように子どものことを考えてくれていることが市民に分かると良いと思う。豊山町や大口町が何故人口が増えているのか、ということをしっかりフィードバックしていただいて、人口が増えていくような施策が、市として考えられるような動きにしてほしい。人口が減っていく前提での資料になっているが、そういう施策も考えていただければ良いかなと思う。
事務局	人口増加に対する取組のご意見かと思います。人口増加につきましては、自然増と社会増ということで 2 つに分けて考えていく必要があるかと思えます。人口の構造的な問題で、今後の推計を見ていくと、自然増はなかなか厳しい。逆ピラミッドの人口構造の中では、なかなか見込めないと思っております。今後、全体としては児童生徒数の減少は進んでいくと推計をしております。一方で、豊山町と大口町が、少し人口が増えているというようなお話もいただきましたけれども、その部分については、社会増の部分が大きいかなと思ひまして、やはり、小牧市に住みたい・住み続けたいという方をできるだけ増やしていく取組を、これまでも子どもに関する施策を重点的に、総合的に推進しているところではありますが、今後、引き続き実施していくことで、小牧市に住んでいただける方を増やしていく取組をしていく必要があると考えております。また、「市の考え方」においても触れさせていただきましたが、教育委員会といたしましては、学校再編に伴ひまして、より魅力的な教育環境の学校を作っていくことで、より地域の強み、若い世代

	の家族を呼び込むための強みに変えていくよう努めてまいりたいと考えております。
鈴木委員	若い世代や子育て世代に向けて計画案を修正していただいたことは良かったと思うが、今の話の人口増は構造的に難しいことで、世代の構成比が全くこれまでの社会と変わってきていて、子どもの数は減ってしまう、我々のような年寄りばかりが増えてくる中で、子育て世代にとっても良くなるという意味合いの中に、やっぱり地域のお年寄りの方々と一緒になって安心して過ごせるというイメージづくりというのか、そういう観点があってもいいかなと思っている。いくつかの市町は、いずれ子どもが減るので、空いた教室をお年寄りのために使えるようにしていきましょう、というような発想を持っているところもある。もちろん若い世代がどんどん増えるなら、それはそれで良いことであるが、基本的には、年寄りが増えてきて、ある意味で活気のない世の中になりがちなところで、学校にお年寄りが立ち寄れるような仕組みがあることで、地域がある意味別の意味で豊かになっていく姿が描けないかなと思う。そういう意味で、お年寄りも一緒になって、というようなことが入るといいかなと思う。これは教育委員会だけではなかなか難しいことなのだが、例えば、学校の図書室を地域の皆さんに解放して、お年寄りは本を読めるようにしたり、家庭科室を地域の大人たちが料理教室に利用するなど、子どもだけの学校ではなくて地域の学校になっていく方向へ動いていくと良いのではないかなと思う。
柴田委員	ここで、本日も欠席の横山委員から、意見を伺っておりますので、ご紹介いただきたいと思います
事務局	横山委員から所要により欠席のご連絡を受けており、事前に資料を確認いただき、意見をいただいておりますので、紹介をさせていただきます。「基本的に現計画案の修正は必要ない」とご意見いただいております。横山委員の意見の中では、「パブリックコメントにおいて、学校には歴史があること、学校は学校以外の機能も有していること、あるいは学校がなくなると人口が減少したり、地域の衰退が懸念されることなどから学校の再編には反対といった意見がありました。そのような意見について、心情的にはよく分かります。私の故郷である岐阜県の母校の中学校も真っ先に再編され、別の中学校に統合されて廃校となりました。その時は一抹の寂しさもありましたし、他の公共施設の再編の方を先にすべきではないかと思いました。しかし、今は廃校となった学校も別用途に利用され、まちに溶け込んでいます。児童生徒数の減少、学校施設の老朽化の問題は、小牧市に限ったものではなく、全国の多

	くの自治体が抱える問題であり、各自治体において、年々、学校再編の取組が増加しています。現在、〇〇の地域は●●の地域より児童生徒数が多いとか、〇〇市は小牧市より、子育て世代が多いと言っても、今後数十年にわたり、日本全国すべての自治体で少子高齢化が一層進むことが推計上、明らかになっており、少子高齢社会を前提としたまちづくり、学校づくりをしていかななくてはなりません。また、学校再編の結果、統合された学校もその後は大規模改修やランニングコストがかかることが明白であり、これらの負担を次世代に負わせることは極力、小さくしていかななくてはなりません。それがいまを生きる私たちの責務でもあります。以上のことに鑑みれば、学校再編はどうしても通らないといけない道であります。しかし、そこには情緒もありますし、他の公共施設と比較しての優先度もあると思います。どうか小牧市におかれましては、そのような市民の感情を踏まえたうえでの跡地活用案や財務等の科学的根拠に基づいた優先度を市民にお示しし、市民のご理解を頂くようお願いしたいと存じます」というご意見をいただいております。
--	--

④学校規模の小規模化について

大村委員	23 ページの不登校対策が、この小規模校の問題と絡んでご意見が出てきたので少し気になったのだが、この 23 ページのところを見ていただくと、「市の考え方」において、「小規模校の解消は、いじめや不登校の対策として一定の効果はある」と記述があるが、これは何か根拠があるのか。というのは、一般的にはむしろ逆で、小規模校の方が不登校対策には効果があり、その中で小規模特認校といった制度もできている。少しそれとは逆の意見のような気がしていて、根拠があるかどうか教えていただきたい。
事務局	23 ページの「市の考え方」のところで、「小規模校の解消は、いじめや不登校の対策として一定の効果はある」と記述しております。こちらにつきましては、小規模校のメリット、デメリットとして記述しておりますが、それが直接いじめや不登校に関わるということではありません。しかし、小規模校のデメリットとして、人間関係が固定化しやすいということも指摘されております。クラス替えができないことで、例えば 6 年間ずっと同じクラスで過ごしていくということもあると思います。一定の適正規模を保つことで、クラス替えを通して、色々な子どもたちと関わることでの効果があると認識しているところでございます。

大村委員	小牧市では、不登校の対策として有効だというご理解があるということなのか。
事務局	固定した環境を打破するという意味でここに記述しました。ただ、不登校の要因は複合的な問題が絡み合っていることを、本市においても強く認識しているところありますので、小規模校を解消すれば不登校やいじめがなくなるというような考えに至っているわけではありません。
大村委員	前段部分を見ると、やっぱり小規模校の解消が不登校の対策として効果があると記述されているのは、後段部分との兼ね合いから、再検討いただいた方が良いかと思う。実際のご意見の中でも、そういったご心配からご意見が出されているかと思うので、ご注意いただければ。
事務局	「市の考え方」で示した前段部分になりますけれども、再度検討させていただいて、必要に応じて修正をさせていただきたいと思います。
大村委員	別の箇所になるが、小規模校を解消した方が多様性の尊重ができる、あるいは多様な人と出会える、という記述がいくつかあるが、これも少し留保いただきたいと思っている。メリットのところに記述があるが、小規模校の場合、1人1人の子どもへの理解が深い、そういった教育が可能だと言われている。したがって、その子ども同士の違いであったり、1人1人を大切にするという意味では、実は多様な子どもに対する対応ができたり、あるいは、そうしたことが、その学級の中であったり、学校全体の中で共有することによって、多様性に触れることが可能な面がある。一方、多人数の場合は、そうした1人1人の状況について深く知ることができないと、むしろそういった多様性に触れることができない、そういった懸念もあるわけで、どちらの方が多様性にとって良いとは簡単には言えないかと思う。そこにご注意いただければ。
柴田委員	不登校の問題については、全体のことは計画で記述があるが、それに応じてどういう対応をしていくか、ということは記述されていない。記述しにくい面があるとは思いますが、いわゆる学びの多様化として様々な学校の在り方があため、今後具体化していく中ではそういった道筋も検討していただくのがいいかと思う。そういったことがまだ市として準備がないため、このような計画になっていると認識しているが。
事務局	学びの多様化としての学校については、全く想定に入っていないわけではありません。要するにいわゆる不登校特例校の制度を活用するにあたっては、そのための建物も必要になってきますので、本計画では、学校を再編していく中で子どもたちにとってより良い教育環境づくりをしていこうとい

	うことも念頭に置いております。その上において、例えば跡地利用など様々なことが出てまいりますから、それに伴って、可能性としてこの先出てくる話ではあると思います。ただ、不登校の問題につきましては、昨年度から不登校に対する取組として、結果としての登校を促すことだけを目指すのではなく、子どもたちの居場所づくりということを念頭に置きながら、個別の学びを推進していくことに視点を变えております。それに併せて、市内 25 校にサポートルームの設置を進めるなど、様々な観点で不登校対策を推進していきたいと考えております。本計画では各論に入り込み過ぎず、この先の議論の中で考えていきたいと思ひます。
--	--

⑤その他全体を含めて

服部委員	先日の PTA 連絡協議会の勉強会において、建替え費用は地方債でやっていくと教えていただいた。令和 28 年度までに 8 校の建替え検討となっており、1 校当たり、昔は 20 億円だったかもしれないが、今は人件費の高騰等により、30 億円、40 億円がかかる中で、8 校となると 300 億円程度かかる。これを地方債で賄うとなると、人口が減って税収が減るのに、返済が可能かどうか不安である。それを増税で賄うのかどうか、この 20 何年までの返済計画、建替え計画とそれがマッチしているかどうか、これが見えてこない。増税をお願いすることになるかどうか、そうなるのであれば、そういうことも理解を求めていく必要があるのかなと思う。地方債は、元金に加えて金利を払っていくので、もちろんその分増えていくことで財政破綻にならないかどうか、この計画に沿ったものになっているのかどうか不安で、建替えることによって借金が増えるということにならないよう計画していただきたい。また、市民に理解を得られるような説明が必要かと思う。市民税等を納め、そういうことに税金が使われることが自分は当たり前だと思っているが、理解を求めることが必要な人たちもきつといるので、知らない間に増税にならないように市民に説明することが必要だと思う。この 20 何年までの間の期間も、その先も返済は続いていくのであろうが、そういう計画がしっかりできているかどうか重要だと思う。
塚本委員	最初のところで話をさせていただいたことと内容が重なってしまうが、この学校再編における協議をどう進めていくか、ということがすごく大切で、スピード感を持って、かつ丁寧に合意形成を図っていく必要があると思うが、

	今回のパブリックコメントを拝見しても、反対の立場の意見が多いのかなと感じる。でも、実はここには意見を書いていないけれど、賛成の人はすごくたくさんいると思っている。今後協議していく際にも、一部の人の強い意見、大きな声だけが出てくるといけないので、どういうメンバーで協議会を開催するか、具体的には保護者、地域住民、学校関係者と記述があるが、どういう学校関係者、どういう地域の方、どういう保護者の方を集めて、課題共有をして意見交換会を実施していくのかがすごく大事である。一部の意見が大きくなって多数の意見が埋もれていくことがないようにしていかなければいけないと思う。
服部委員	その通りだと思う。オリンピックの誹謗中傷の問題でも、ああいう意見がクローズアップされてしまって、よくやったという意見はあまりクローズアップされない。これと同じで、自分は賛成であってもそこに賛成の意見が出ないので、賛成の意見をしっかり書いていくことも必要だと思う。
事務局	様々な意見がある中で、賛成の意見、反対の意見があるかと思います。いずれにしても、先ほど少し話をさせていただいたと思いますが、何が課題で心配されているのかを、しっかり紐解いた上で、丁寧に説明を尽くしていくことがより大事になってくるかと思いますので、仮に賛成の意見が多かったら、説明をしなくていいかと言うとそうではなくて、しっかりと説明を尽くしていくということが今後の進め方においては大事だと考えておりますので、そのように努めていきたいです。
鈴木委員	その賛成・反対のところがやっぱり1番大変だと思う。どうしても今までの学校をイメージしながら、こうあるべきという意見が強くなりがちで、これまでの学校のようなものであればいいが、少し時代が変わってくると、これまでと違う学校を皆さんできちんと勉強しないといけない気がしていて、「どんな学校がいいか」と意見を伺って、それに対応するようなやり方を少し改めないといけないと思う。市が持っている情報と、地域が持っている情報をお互いに突き合わせながら、きちんと勉強会をしないといけない。「どんな学校がいいか」、「そうですか」みたいな感じになると少しまずいかなと思っています。今後の地域別の議論の進め方というか、どういう方が参加してどういう議論していくかはやっぱり1番大事かなと思う。先ほどの財政的なこともすごく気になっていて、例えば、大きく建替えるというようなビルプロジェクトは、それはそれで大変であるが、一方で、老朽化がどの学校も進んでいると思う。日常の学校生活の中で、例えば、トイレは最たるものであ

	るが、理科室、音楽室、家庭科室、工作室のようなものは30年も40年も前の機能になっているため、どうリニューアルしていくのか、そこへお金を上手に投じていくことも考えないといけない。難しい問題ばかりであるが、そういう意味で、環境格差が生じないようにしなければいけない。トータルで財源をどのように投じていくのか、学校建築だけではなく、様々なものがあると思うため、その辺はきっと別の部署で考えられていると思うが、検討していく必要があると思う。
--	--

5 閉会

【事務局】

本日委員の皆様からいただきました意見を踏まえ、事務局で最終的な計画案を取りまとめたものを、9月24日開催の定例教育委員会で議決を経て策定となる見込みです。策定後は、市ホームページ等で公表するとともに、委員の皆様へも計画書の冊子を送付させていただきます。本日の委員会を持ちまして本委員会は終了となりますが、全6回にわたる会議で貴重なご意見を賜りました委員の皆様方に感謝を申し上げます。